



米国における 日本絵画保存修復の課題： 人材育成、そして日本との連携 の重要性



ターニャ ウエダ
東洋絵画保存修復 室長
タテウチ・コンサベーション・センター
シアトル美術館・シアトルアジア美術館

Tanya Uyeda
Director of East Asian Paintings Conservation
Tateuchi Conservation Center
Seattle Art Museum/Seattle Asian Art Museum





□ シアトル美術館・シアトルアジア美術館

- 1933年、リチャード・フラー博士およびマーガレット・フラーによるコレクションを基盤として設立
- 主として個人によるアジア美術コレクションを起源とする、米国の主要な公立美術館コレクションのうち、2例しかないものの一つ
- 日本絵画やく500点；中国絵画やく400点；韓国絵画やく50点
- 3つのキャンパス：
 - シアトルアジア美術館（ボランティア・パーク内）
 - シアトル美術館（ダウンタウン）
 - オリンピック・スカルプチャー・パーク（屋外彫刻公園）

□ タテウチ保存修復センター

- 2020年に美術館の総合改修事業の一環として設立
- 米国西部において唯一の組織に付属する東洋絵画保存修復施設
- 主の活動や役割：
 - シアトル美術館の東洋絵画所蔵品の保存修理及び管理
 - 米国西部地域の連携機関コレクションの保存修理
 - 専門的な保存修復材料の購入資源
 - 地域の保存修復師や学生およびインターンなどを教える
 - 講演会、ワークショップ、ツアーなどを開かれる
 - 来館者はガラス扉で修復室の活動を自由に覗ける
 - メロン財団、タテウチ財団による基礎助成金で設立

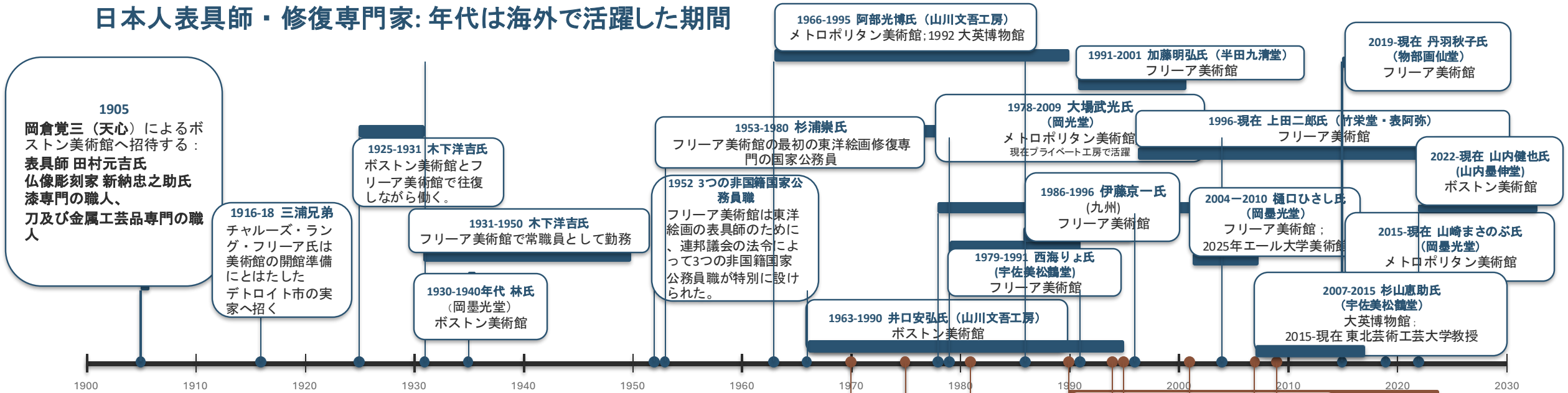


- 日本との協力・連携の重要性を考察する
 - 日本絵画および東洋絵画の修復に関しては、日本は最も優れた伝統技術と材料を有している。
 - 欧米では古くからこうした知識と技術が尊重され、職人を招聘するか、作品の修復を日本の工房に依頼してきた。
 - 数少ない優秀な人材は、日本の工房にとって重要な資源である。
 - 過去40年間で、日本では文化財保存修復が専門職として社会的に認知され、職業としての評価も高まってきた。また、労働環境が改善され、より制度化・体系化されてきた。
 - 海外へ移る必要性がなくなったため、高度な技術や専門性を持つ人材を確保することが難しくなっている。

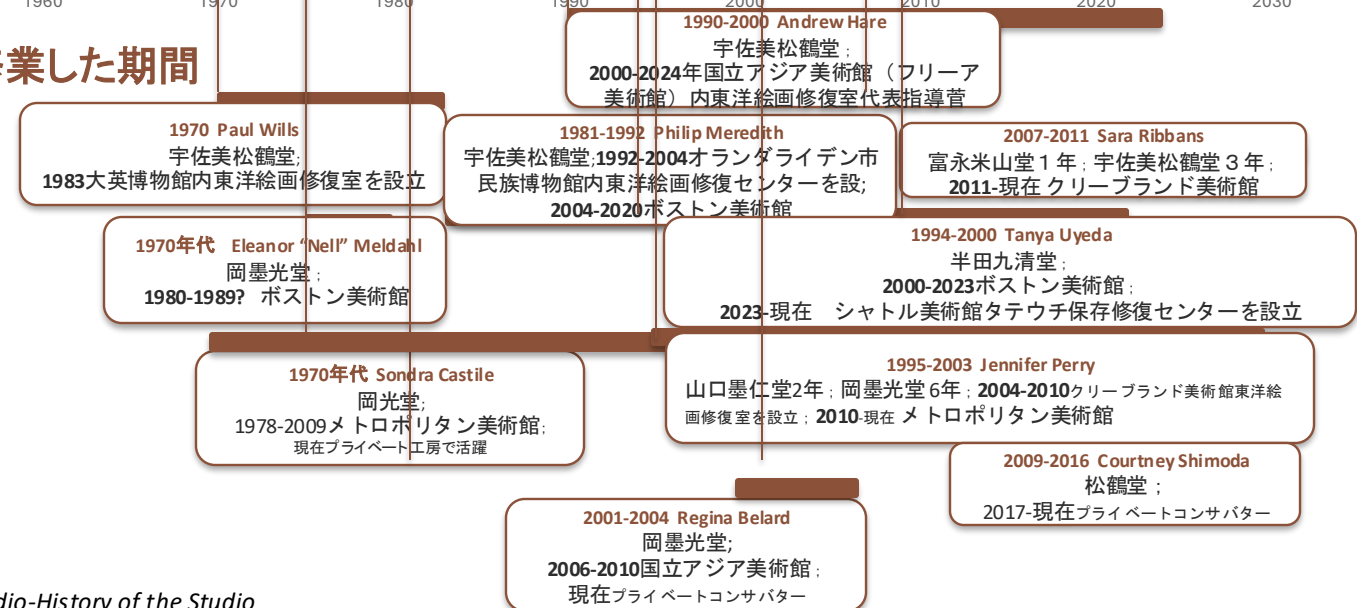
日本絵画修復をめぐる人材交流の歴史: 米国中心

線 = 活動期間 ● = 開始時点 「現在」 = 2030年まで表示

日本人表具師・修復専門家: 年代は海外で活躍した期間



欧米の修復専門家: 年代は日本で修業した期間



- 海外における「文化財修復」は、主に美術館・博物館を中心に行われている。
 - 専門職員は、主に大学院教育を基盤として、実技・実務経験を積む。
 - 高度な技術・知識・判断力を備えた専門人材を育成する。
- 問題**：東洋絵画修復を専門的に学べる大学院課程は、海外にはない。
- 日本で修業するために必要な条件：
 - 日本語能力
 - 就労ビザ
 - 受入れ工房の確保・身元保証
 - 長期的な修業の確約
- 大学院課程、美術館・博物館、財団、政府機関が連携し、日本絵画の保存修復について専門的な教育・研修を受ける意欲のある学生を支援する必要がある。

したがって、特定の保存修復上の問題に対応するためには、数年間にわたる徒弟修業制度よりも、特定の修復技術や保存状態の問題に焦点を当てた、短期間・集中的な研修の方が有効である可能性がある。

米国美術館・博物館内 日本絵画修復代表施設 表 1

機関	所在地	保存修復施設	設立・組織	専門スタッフ数	主な専門分野	研修・教育プログラム
スミソニアン国立アジア美術館 (フリーア美術館)	ワシントン D.C.	東洋絵画保存修復室	1932年設立。保存修復・科学分析部門施設の一つ	2名（常勤） 修復部門全員15名	中国絵画（空）、日本絵画2名、科学的調査を併用	平山郁夫日本絵画保存修復プログラム、中国絵画保存修復プログラム。日本・中国からの専門家交流、フェローシップ、ワークショップなど
メトロポリタン美術館	ニューヨーク市、ニューヨーク州	東洋絵画保存修復室	1960設立。現在の施設は1999年にアジア美術学芸部門内へ移設	5名（常勤） 修復部門全員60名(約)	中国絵画3名、日本絵画2名	* 学部・大学院インターンシップ、フェローシップ、専門研修、ワークショップ、調査
ボストン美術館	ボストン市、マサチューセッツ州	アジア美術保存修復室	1907年設立。現在の施設は1980年。1999年に館の保存修復部門内へ移設	4名（常勤） 修復部門全員30名	日本絵画2名・中国絵画1名・ヒマラヤ絵画1名、日本の浮世絵版画・本（空）。韓国絵画も対応	プロジェクトによってインターンシップ、フェローシップ、研修を応募。

米国美術館・博物館内 日本絵画修復代表施設 表2

機関	所在地	保存修復施設	設立・組織	専門スタッフ数	主な専門分野	研修・教育プログラム
クリーブランド美術館	クリーブランド市、オハイオ州	アジア絵画保存修復研究室／中国絵画保存修復センター	2008年設立。 中国絵画保存修復センターを併設	2名（常勤） 修復部門 全員15名	中国・日本・韓国・ヒマラヤ絵画。掛軸、卷子、屏風、画帖、パネル。中国・日本の伝統的表装技法と現代的分析技術	中国絵画保存修復フェローシップ、国際交流、伝統技法の継承・研修、中国・日本からの専門家を招聘
ミシガン大学美術館	アン・アーバー市、ミシガン州	ロバート・B・ジェイコブス・アジア美術保存修復研究室	1987年設立。 大学美術館内一般公開施設	1名（常勤） 修復部門 全員1名	中国絵画；日本絵画、書籍、浮世絵版画・紙作品。	伝統的な中国式表装・再表装を中心に、科学的分析と現代的保存技術を併用2025年から中国美術作品研究ワークショップを年2回実施。大学院生の作品研究と保存修復教育を連携
シアトル美術館／シアトル・アジア美術館	シアトル市、ワシントン州	アツヒコ＆イナ・グッドウィン・館内（タテウチ）保存修復センター	2020年開設。 保存修復部門内一般公開施設	1名（常勤） 修復部門 全員8名	日本絵画；中国絵画、韓国絵画 専門家を招聘	インターンシップ、研修、ワークショップ、講演会、国際交流などを展開；将来常勤スタッフを増やす

日本絵画修復工房における研修上の課題

- 工房の第一義的な責務は、依頼を受けた作品を、納期に沿って高い水準で修復すること。
- 複雑かつ大量の修復案件に対応するため、個人作業ではなく、チームでの作業が基本となる。
- 寺院・神社などの現地での修復作業があり、欧米の美術館・博物館の収蔵品では通常扱われない作品や資料を対象とする場合がある。
- 常勤職員の育成が優先される。
- 工房との直接的な関わりがない中で、職人や材料・道具の仕入先との関係をどのように構築するか。
- 工房は、作業工程の効率化と経営の持続可能性を優先する必要がある。
- 外国人研修生は、体系的・包括的な研修を受けられない場合がある。
- 研修生に割り当てられる作業は、教育機会を最大化することよりも、リスクを最小化することを優先して決定される場合がある。

北米保存修復学大学院プログラム比較			
プログラム	学生数（概数）	教員数	専門分野・研究領域
デラウェア大学／ウィンタートウル（WUDPAC） （デラウェア州）	約30名 学年 1 0 名（修士課程 3 年間）	約19名	家具；図書館・アーカイブ資料；立体美術品；絵画；紙作品；写真；保存環境・予防保存；織物；保存科学；保存写真・イメージング
バッファロー州立大学 （ニューヨーク州）	約30名 学年 1 0 名（修士課程 3 年間）	8名	立体美術品；絵画；紙作品；写真；書籍・図書館資料；保存科学；イメージング
ニューヨーク大学（NYU） （ニューヨーク市）	最大約24名 学年 6 名 修士課程 4 年間 （保存修復学・美術史両修士号）	コア教員4名	紙作品；写真；書籍；絵画；立体美術品；タイムベースド・メディア・アート
UCLA／ゲティ （ロサンゼルス市）	現在約9名 隔年で修士課程 5 名 博士課程 3 名	コア教員4名	考古資料・先住民文化資料；文化遺産保存；材料科学；予防保存；保存修復研究；地域およびコミュニティとの協働による保存
クイーンズ大学（カナダ） （キングストン市オンタリオ州）	約20名 学年 1 0 名 修士課程 2 年間	コア教員5名	絵画；立体工芸品

施設・機関ごとの方針の違い

- 日本の修復工房
 - 本格的な再表装を優先する
 - 長期的な構造安定性を確保するための、複雑な修復処置
 - 作品の外観を大幅に改善することを重視
- 欧米における研修は、美術館・博物館の業務上の要件に対応することを重視する。
 - 予防的保存
 - 処置を伴う保存修復
 - 展示・貸出しに向けた作品の準備
 - 大量の作品を対象とした処置
 - 保存修復処置において、より保守的なアプローチを採用し、作品の外観に大きな変化を加えることを避ける傾向がある。
- 学芸員や専門外の修復スタッフの教育が必要

日本絵画の保存修復分野では、以下の取り組みが有益である。

- 米国および日本の大学院レベルの専門教育課程との、より緊密な情報交換と連携
- 欧米の保存修復専門家を対象とした、当面の保存修復上の課題に対応するための、特定の技術に焦点を当てた研修・ワークショップ
- より複雑な保存修復処置について、計画の策定と適切な人材・資源の配分を通じて対応するための、専門家ネットワークへのアクセス
- 美術館・博物館の専門職員と、欧米の美術館・博物館における保存修復上の方針や優先事項を理解する日本人保存修復専門家との、より緊密な連携
- 質の高い修復材料へのアクセスと、材料・技術に関する情報の一貫性の確保